



## 続編が完成！名古屋大学教授らが本格的映像教材「刑事訴訟(公判編)」を制作 ～地域社会と刑事裁判をめぐる問題を考え、裁判員裁判への参加意識の醸成を目指す～

### 【本研究のポイント】

- ・名古屋大学大学院法学研究科教授が、法曹実務家、映像の専門家とともに本格的な刑事訴訟の映像教材「刑事訴訟(公判編)」を制作。
- ・2022年6月より一般公開している「刑事訴訟(捜査編)」の後編。
- ・後編である公判編は、最高裁判所からも資料提供の協力を受け、専門家監修のもと裁判員裁判が進行し、視聴者が裁判員を疑似体験することができる。広く裁判員裁判への参加意識の醸成を目指す。
- ・映像教材の原作となるストーリー、解説、書式等をまとめた書籍「Practical Studies 刑事訴訟」を2023年夏頃公刊予定。今後、シンポジウムや解説講義、公開講座等の実施を計画し、広く地域社会のみなさんと刑事裁判をめぐる諸問題を一緒に考える機会を提供したいと考える。

### 【研究概要】

国立大学法人東海国立大学機構 名古屋大学大学院法学研究科「法実務技能教育教材研究開発プロジェクト」(PSIM コンソーシアム)は、同大学大学院法学研究科の宮木 康博 教授を中心に、捜査から裁判に至る各刑事手続段階を実感できる映像教材の第二弾として、後編「刑事訴訟(公判編)」を制作し、2023年5月30日より一般公開をしました。

※詳細は、添付チラシをご参照ください。

■「刑事訴訟(公判編)」(予告編:1分39秒)  
<https://youtu.be/UJZu9FpkGac>

■「刑事訴訟(公判編)」(本編:63分34秒)  
<https://youtu.be/Ltk6SGIFEhk>



この映像教材は、2022年6月より一般公開している「刑事訴訟(捜査編)」の後編です。前編の「刑事訴訟(捜査編)」は、下記 URL をご確認ください。  
<https://www.nagoya-u.ac.jp/researchinfo/result/2022/07/post-284.html>  
[https://www.nagoya-u.ac.jp/researchinfo/result/upload/20220713\\_law.pdf](https://www.nagoya-u.ac.jp/researchinfo/result/upload/20220713_law.pdf)

今回の後編は、第一弾の前編と異なり、最高裁判所から資料提供の協力を受けて制作しました。専門家監修のもと、裁判員裁判が進行する内容になっており、視聴者が裁判員を疑似体験することができることで、広く裁判員裁判への参加意識の醸成を目指します。

## 【詳細】

事件は、不倫関係にある中で発生した殺人事件です。視聴の想定者として高校生も含まれることから、事件内容の妥当性については慎重に議論を重ねましたが、最終的に、社会に実在する事象から目をそらさず、様々な事情を踏まえて一つの事件に裁判員として向き合ってほしいとの思いが共通認識となりました。陪審制度とは異なり、日本の裁判員制度の下では、裁判員は裁判官と一緒に、事実認定と量刑判断を行います。事実認定は証拠によるべきであり、不倫関係にあるということで予断や偏見を持って行うことは不適切である一方、量刑の判断に際しては、不倫関係にあったことが影響します。どのような事実認定を行い、裁判員がいかなる判決を言い渡すのか。この教材を素材に、皆さんが本件の裁判員になった想定で、ご家族、友人、教育現場の先生方と一緒に考えてみてください。

## 【今後の展望】

2022年6月に公開した本映像教材の前編「刑事訴訟(捜査編)」は、大学生や高校生だけでなく、法曹実務家、司法修習生のほか、少年院の教育教材などとしてもご活用いただいています。そこで、本映像教材の理解に資するものとして、原作となるストーリー、詳細な解説、書式等をまとめた書籍「Practical Studies 刑事訴訟」を2023年夏頃に公刊する予定です。本書を通じて、実践的かつより詳細に刑事手続を学習していただければと思います。これら映像教材や書籍を活用して、シンポジウムや解説講義、公開講座等の実施を計画し、広く地域社会の皆さまと刑事裁判をめぐる諸問題を一緒に考える機会を提供していきたいと考えています。また、公判編についても、SDGsへの対応として日本語字幕版を制作するほか、英語字幕版の制作も予定しています。

# 刑事訴訟

―公判編― 人物相関図



語り 榎木孝明



猪俣幸三  
裁判長



裁判員 1

裁判員 2

裁判員 3

右陪席

左陪席

裁判員 4

裁判員 5

裁判員 6



浪花太郎 次席検事



大野昭明 検事



大西薫子 検事



豊島英子 書記官

検察側

有罪 ~~X~~ 無罪



鈴木正子 弁護士



竹永公平 弁護士

弁護側



被害者参加弁護士  
有泉由紀 弁護士



証人  
坂崎みどり



被告人  
上原小夜子

資料提供 最高裁判所

● PSIM コンソーシアム ● 令和4年度地域貢献特別支援事業(名古屋大学)

掲載の内容、写真等の一切の無断転載、転用を禁止します。 ©2022 Copyrighted by PSIM Consortium, all rights reserved.

## — 高校生も裁判員になる時代に —

裁判員制度は、「裁判員が裁判官と共に刑事訴訟手続に関与することが司法に対する国民の理解の増進とその信頼の向上に資する」（裁判員法1条）として導入された制度です。もともと、1999年に始まった司法制度改革の議論を振り返ると、裁判員制度は、法の支配の定着、個人の尊重、国民主権の実質化といった壮大なビジョンの中に位置づけられていることがわかります。すなわち、裁判員制度には、社会正義が損なわれたときに、その回復に向けて主権者である国民と共に取り組むことで、法の支配を定着させ、個人が尊重される社会を実現しようというメッセージが込められているのです。

では、開始から10年以上を経た現在、裁判員制度は日本社会に根づいているといえるのでしょうか。様々な評価があるところですが、いずれにしても、18歳・19歳を新たに裁判員として迎えることを契機に、もう一度、裁判員制度に向き合い、メッセージの意味を考えてみてはどうだろうか。これが映像教材の制作に込められた私たちの想いです。

公開済みの捜査編は、中学・高校・大学・法科大学院の授業等でご利用いただいているほか、司法修習生や法曹三者の方々からの反響が寄せられています。VTRを幅広くご活用いただき、刑事手続のあり方を考える輪が広がっていくことを願っています。

### スタッフリスト

執筆・監修	四宮 啓 (弁護士・國學院大學名誉教授) 城 祐一郎 (元検察官・昭和大学教授) 官木 康博 (名古屋大学教授)	
執筆	山崎 拓哉 (弁護士) 栗山 晋 (弁護士) 大久保 智晶 (弁護士) 山下 祐司 (弁護士) 池亀 尚之 (千葉大学准教授)	
制作協力	藤本 亮 (名古屋大学) 大橋 禎子 (名古屋大学)	
脚本	児島 秀樹	
語り	榎木 孝明	
キャスト	白須 慶子 河本 祐貴 小谷 貴船 高尾 美有 江浦 雄大 西条 美咲 久米田 彩 奥田 武士 山副 純子 寺町 徹 安藤 俊昭 渡辺 美和 羽生 直人	撮影監督 館岡 悟 制作プロデューサー 澤田 卓 ヘア・メイク 三上 早苗 奥田 真莉 制作協力 高樹 一生 編集・ディレクター 鈴木 洋平
	野仲 イサオ	
製作	PSIMコンソーシアム 令和4年度地域貢献特別支援事業 (名古屋大学)	
資料提供	最高裁判所	

### QRコードから動画を観る

この映像教材はどなたでも視聴可能です

前編 (捜査編) はこちらから↓

刑事訴訟 (捜査編) 予告編

刑事訴訟 (捜査編)



映像教材 刑事訴訟 (公判編) 予告

< 1分 39秒 >



映像教材 刑事訴訟 (公判編)

< 63分 34秒 >



PSIM コンソーシアム (法実務技能教育教材研究開発コンソーシアム)

名古屋大学大学院法学研究科を主幹校とした法実務技能教材にかかる研究開発コンソーシアムです。現在、国内外の多数の法科大学院および法曹養成に関わる組織や団体等が参

加しています。PSIM コンソーシアム参加校は、模擬裁判や模擬相談などの教育教材やその活用方法を研究・開発・共有し、「実践による学び (Learning by Doing)」を通じて主体的に法を身につけていく教育機会を提供しています。

詳しくは公式サイトへ

